

2018年の北海道地震で、仮設住宅として使われたムービングハウスを再利用した交流宿泊施設「モビリタコート岩手」が12日、岩手県岩手町の総合運動公園内に開業した。家電や家具を備えた施設で平常時は観光拠点として、災害時は避難所や仮設住宅としての活用を想定する。

仮設住宅 交流宿泊施設に

北海道地震で使用、岩手・岩手町に開業

移動式の木造平屋で全6部屋ある。寒冷地に対応した高い断熱性が特徴だ。定員1〜3人の27平方メートル、定員1〜5人の43平方メートルの2タイプ。それぞれキッチンや調理器具、テレビ、洗濯機などを備える。

1人1泊5000〜8500円で予約はオンラインのみ。新型コロナウイルス禍で需要が高まる非接触型の宿泊システムを採用し、事前にメールで送られる暗証番号を入力してチェックインできる。朝食に弁当が付くプランもある。

ムービングハウスは18年9月に発生した北海道地震の発生後、震度6弱を観測した北海道むかわ町で2年間、被災者向け仮設住宅として使われていた。リース会社から岩手町が買い上げた。ハウスを宿泊施設と

災害時は避難所に

して再利用する取り組みは全国初という。町みらい創造課の熊谷洋造課長補佐は「これまで町内には宿泊できる場所が少なかった。近隣のホッケーグラウンド利用者や観光客に泊まってもらいたい」と期待する。

運営は防災まちづくり事業を手がけるクレーラークーン（茨城県）が担う。災害時には町と結んだ協定を基に避難所などとして柔軟に運用する。

新型コロナウイルス感染者と離れて暮らす必要のある人や火災で自宅を失った人への開放も検討。大規模災害時に他の自治体から要望があれば、トレーラーで運ぶことも可能という。

同社の藤沼昇二郎代表取締役は「災害時

には仮設住宅などとして運用する新たな形の宿泊施設となる。雄大な自然を生かし、町の魅力を発信して人を呼び込みたい」と話した。



家具や家電が備え付けられたモビリタコート岩手の室内